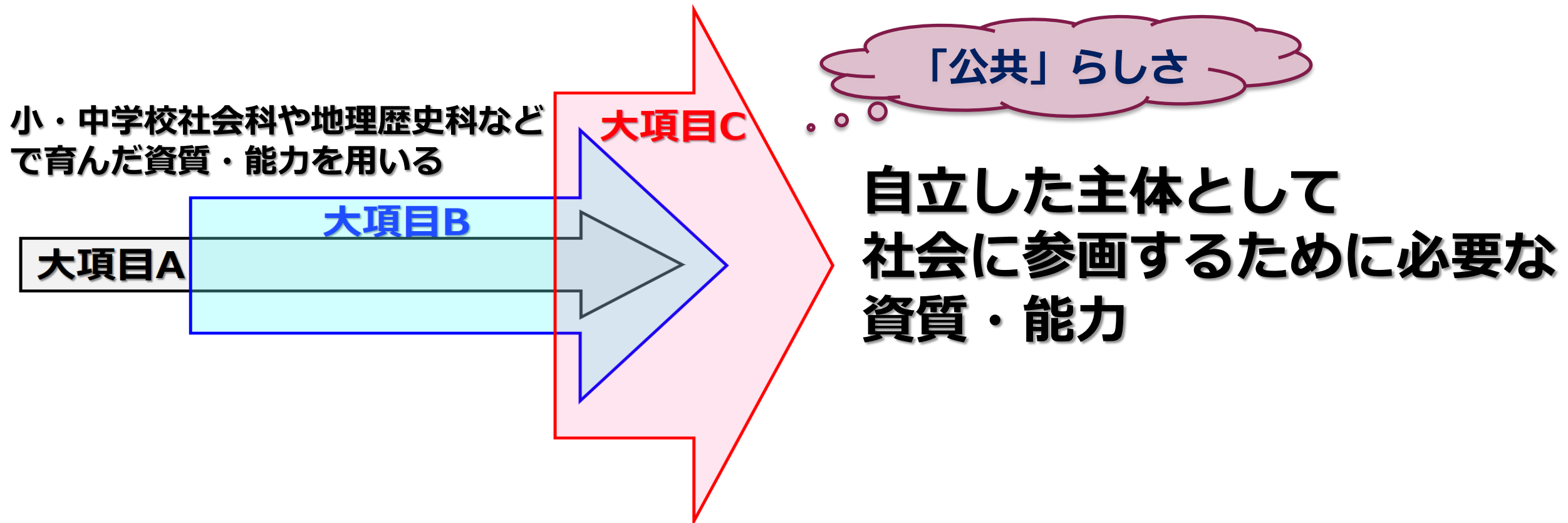


高等学校公民科の必修修科目「公共」の内容構成のイメージ



現実社会の諸課題の解決に向け、自己と社会との関わりを踏まえ

- ・ 社会に参画する主体として自立すること
- ・ 他者と協働してよりよい社会を形成することなど

について考察する

中学校社会科公民的分野の概念的な枠組み

➤ 概念的な枠組みイメージ図（『中等教育資料』令和2年1月号より）



- ・ 概念によって形作られた枠組み
- ・ 概念的枠組みは、学習や体験によって形作られる
- ・ 私たちは概念的枠組みを通して

→ 社会的事象を解釈したり

→ 課題を見いだしたり

→ 課題の解決策を考えたりする

『中学校解説 社会編』 公民的分野

A 私たちと現代社会

- (1) 私たちが生きる現代社会と文化の特色

位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、

- (2) 現代社会を捉える枠組み

対立と合意、効率と公正などに着目して、

C 私たちと政治

- (1) 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則

対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、

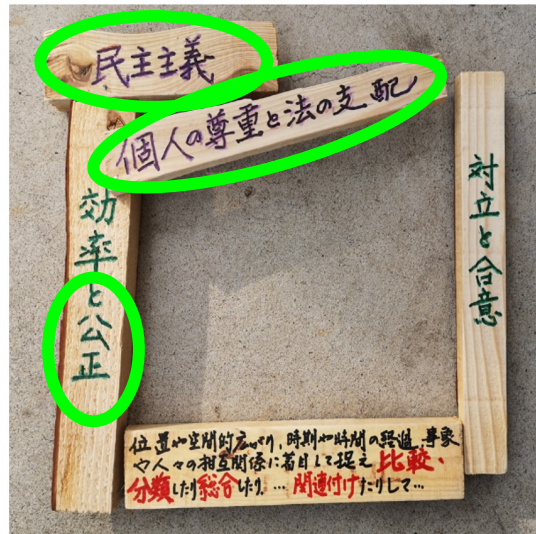
高等学校公民科「公共」の概念的な枠組み

「公共」では

- A(1) **公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性など**に着目して、
- A(2) 主体的に社会に参画し、他者と協働することに向けて、**幸福、正義、公正など**に着目して、
- A(3) 自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体となることに向けて、**幸福、正義、公正など**に着目して、
- B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、**幸福、正義、公正など**に着目して、
- C 持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、**幸福、正義、公正など**に着目して、

概念的な枠組みを働かせ、考察、構想する学習

鍛えられた
「見方・考え方」



「見方・考え方」
を鍛える

それぞれの概念も学びによって変容していく

選択・判断の手掛かりとなる考え方

公共的な空間における基本的原理

幸福、公正、正義

法、政治、経済に係る概念など

生徒の概念的な枠組みは一人一人異なることを踏まえる

中学校社会科における「探究」

地理的分野

C（４）地域の在り方

空間的相互依存作用や地域などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

ア 地域の実態や課題解決のための取組を理解すること。

イ 地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

ア **地域の在り方**を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、**そこで見られる地理的な課題**について多面的・多角的に考察、**構想**し、表現すること。

歴史的分野

C（２）現代の日本と世界

課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ウ)これまでの学習を踏まえ、**歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方**について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、**構想**し、表現すること。

公民的分野

D（２）よりよい社会を目指して

持続可能な社会を形成することに向けて、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を**探究する活動**を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察、**構想**し、自分の考えを説明、論述すること。

高等学校地理歴史科、公民科の必修修科目における「探究」

地理総合

C(2)生活圏の調査と地域の展望

生活圏の調査と地域の展望 空間的相互依存作用や地域などに着目して、課題を**探究する活動**を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。
(ア)生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア)生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取組などを多面的・多角的に考察、**構想**し、表現すること。

歴史総合

D(4) 現代的な諸課題の形成と展望

内容のA、B及びC並びにDの

(1) から (3) までの学習などを基に、持続可能な社会の実現を視野に入れ、主題を設定し、諸資料を活用し**探究する活動**を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) **歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題**を理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、**構想**し、表現すること。

公共

C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち

持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、**現代の諸課題を探究する活動**を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、**構想**し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述すること。

年間指導計画の重要性 「歴史総合」の構成を例に

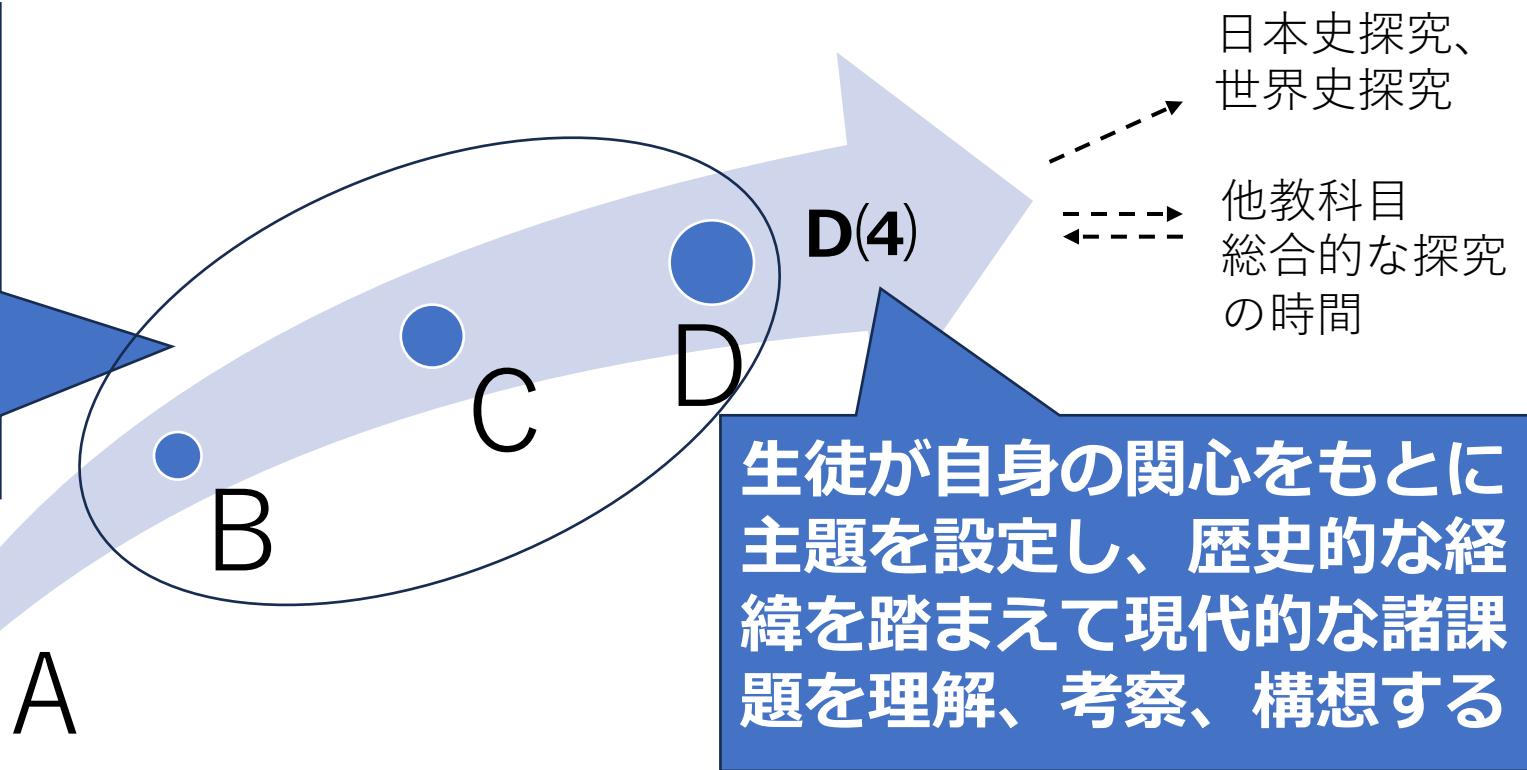
【年間指導計画の作成に関する内容の取扱い】

ア 内容のA、B、C及びDについては、この順序で取り扱うものとし、A、B及びC並びにDの(1)から(3)までの学習をすることにより、**Dの(4)の学習が充実するように年間指導計画を作成すること。**

(1)生徒が諸資料から「問い」を表現し、課題意識を育み、
(2)(3)で主題について諸資料を基に考察する学習を進め、
(4)で歴史の大きな変化と現代的な諸課題との関係を考察し、振り返りやまとめを行う

(1)から(4)までの構成が、課題を追究・解決する学習のプロセス

中学校社会科



【大項目Aに関する内容の取扱い】 この科目の導入として位置付け、(1)、(2)の順で取り扱うこと。また、中学校社会科の学習の成果を踏まえ、より発展的に学習できるよう留意するとともに、**B、C及びDの学習の基盤を養う**よう指導を工夫すること。